金沢だより

安　積　健　一＊

昨年４月，金沢へ移って来てからほぼ１年余が経過した。

加賀百万石の城下町金沢市は，藩政時代の面影をそこここに残す文化都市であり，かつ北陸の行政，経済の中枢都市として発展を続けている。

500年程前までは北陸道の一寒村であった金沢が発展の兆しをみせるのは，本願寺八世蓮如が組織化した一向宗徒が，守護富樫氏を敗り，日本の歴史上例をみない「百姓の持ちたる国」として，加賀地方一帯を支配下に置き，その拠点尾山御坊を現在の金沢城の地に創建し，門前町として賑わいを見せた頃からである。やがて戦国時代も末期の天正８年（1580）佐久間盛政が尾山御坊を攻め落し，その跡に尾山城を築き一向宗徒による共和体制は幕を閉じる。天正11年（1583）前田利家が七尾小丸山城から尾山城へ入城し，名称を現在の金沢城と改め加賀百万石（実質石高百三十三万石）の本城としての偉容を整え，以後14代約300年間の藩政時代を迎える訳である。

金沢漆器，輪島漆，山中漆器，九谷焼，大樋焼，金箔工芸，加賀友禅などの伝承技術や能楽，茶道等も，この藩政時代に育まれ，三代藩主利常，五代藩主綱紀の頃にはその頂点に達し，百万石文化が絢爛と咲き誇ったといわれています。

また，金沢市は浅野川と犀川とに沿って発達した段丘（台地）と扇状地および河北潟を中心とした沖積底地との接合域にあたり，他の近代都市には見られない高低差の著しい市街を形成しており，この地形的特徴と今なお残る百万石城下町の面影，さらには色濃く残る京風文化とがあいまって，一種独得の情緒をかもしだしている。

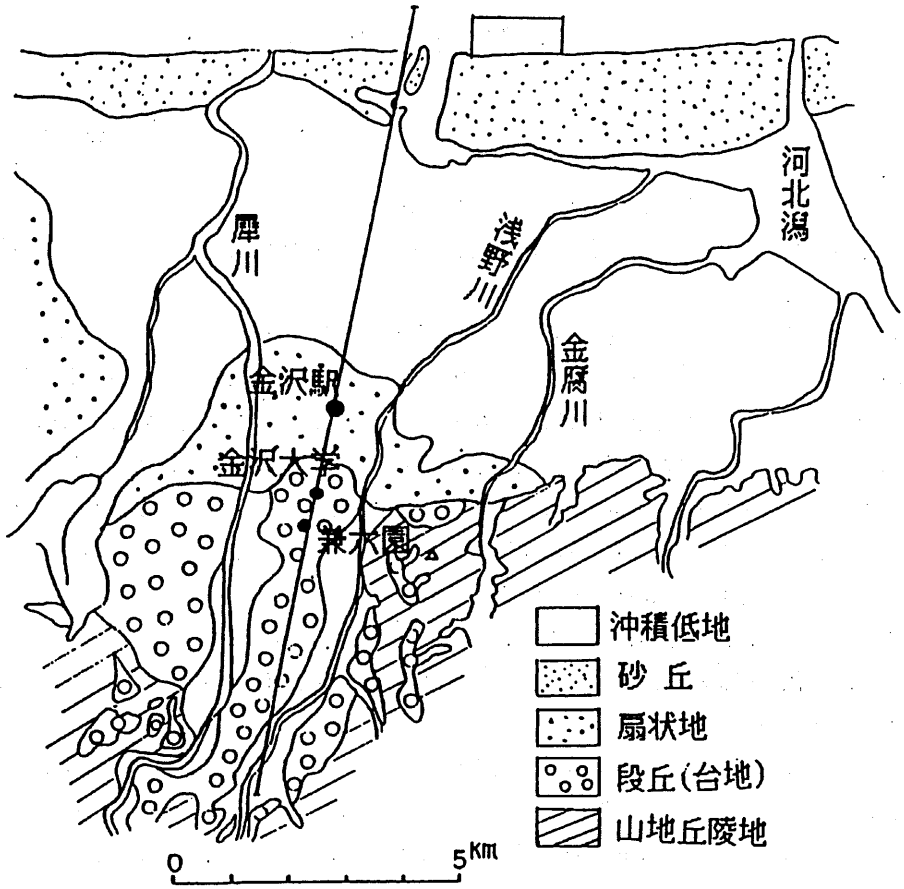
市内には，金沢城跡，兼六園，武家家敷跡，尾山神社，尾崎神社，妙立寺（忍者寺），天徳院，大乗寺等々の名勝・史跡が数多く存在し，四季折々たくさんの観光客がおとずれている。しかし，連休や夏休みには著しい交通渋滞・観光ラッシュが引き起こされ，迷惑とさえ感じられる。そこで，会員の皆様が訪れる際には，平日をおすすめする（無理かな？）。実は，私もこちらにきた当初は，名勝・史跡めぐりを目論んでいたが，今だ果たせずにいる（仕事一筋？）。今のところ夜の片町にたまに出るだけである。

また，金沢近郊には温泉も多く，能登では和倉（泉温95℃，含塩化工類食塩水），加賀では加賀平野を望む山代（52℃，含石膏食塩芒硝泉），柴山潟湖畔の水郷片山津（71.2℃，含塩化工類食塩水），鶴仙峡で知られる山中（51℃，含石膏食塩芒硝泉），雑木林に囲まれた閑静な粟津（55℃，含食塩芒硝泉），と隣接しながら，しかもバラエティに富んだ風景と泉質の温泉群が分布している。これらの温泉は白山火山脈や中新世の火山岩からの湧出によるもので，温泉めぐりもこれからの楽しみの一つである（すでに，和倉，山代，片山津，山中温泉は浸かっている。あとは粟津温泉）。

何やら観光，温泉めぐりを楽しむために金沢に来ているようなたよりになったが，営業に役所めぐりをしているのが現状である。図は，金沢市の地盤概要（石川県平野部の地盤図集より模式化）を示したものである。本文とは直接関係ないことをお断りしておく（単なり頁かせぎとらしく見せるため）。

新潟応用地質研究会のますますの発展と会員各位の御健勝を願いつゝ終りとしたい。

＊㈱興和金沢営業所 所長



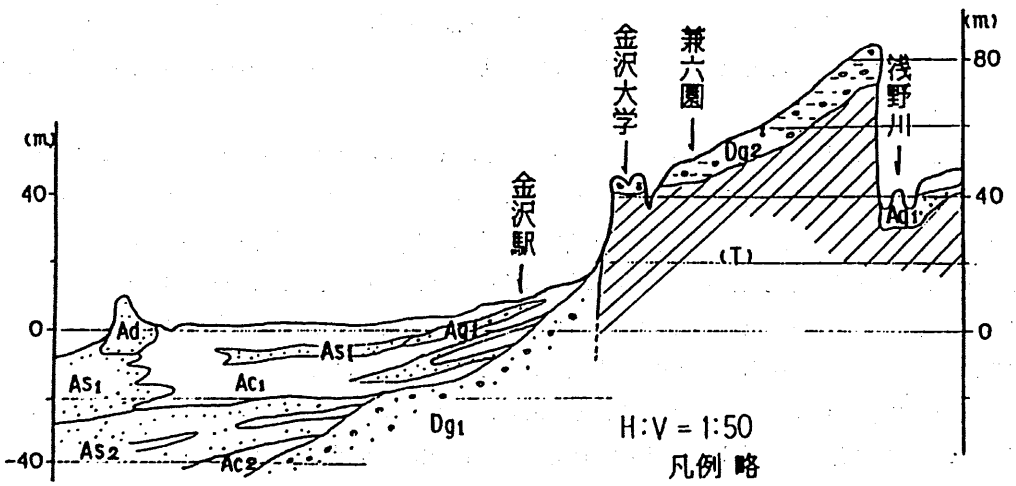


図　金沢市の地盤概要（石川県平野部の地盤図集より模式化）